

## 谷津田再生と生かす体験活動(古代米づくり)

対象：幼児から中学生(親子中心で、小学高学年以上は、子どもだけの参加も OK です。)

(特徴) 年間を通しての計画の中には、大人対象のプログラムもあります。(都会の若い親たちに) 田舎暮らしを気軽に体験してもらえる地域でもあります。駐車場もあります。

人数：25 人くらい : スタッフ 3 人くらい

教科/分野 : 里山の自然を生かす活動 (1 回目) ビオトープで古代米の田植え体験と遊び

授業時間数：4 時間

場所 : 千葉市若葉区谷当町の一角「堂谷津の里」

ESD プログラムへの 想い * 体験プログラム (1)	多くの人に谷津田ビオトープ作り (ウェットランド環境を体験してもらいたい) 多くの人に生きものみつけの体験をしてもらいたい。 何故古代米の田植えなのか? 稲の原種であり生命力が強く荒地で、無肥料、干ばつ、冷害にも強いことから受け注がれてきた。古代の人々の稲作を想像する。 (3 種: 黒米、赤米、緑米は、もち米です。)
目標	谷津田ビオトープでの古代米の田植えと生物みつけ! 体験と作業を通じて、里山保全や谷津田再生の重要性を理解する。 ・ 学習者が・・・泥に触れる喜びが感性を豊かにするようになる。 ・ 学習者が・・・田んぼにいる生き物の多様性に気づくことができる。
特徴	・ 実際に泥んこになる体験ができる。 ・ 古代米 3 種の田植えを体験できる。(緑米、赤米、黒米) ・ 生きもの、植物を観察するだけでなく、描いてみることの表現ができる。
持続可能な社会づくりの構成概念	・ 責任制、連帯性: 継続可能な田んぼビオトープ作りの体験を通して、力をあわせて、田んぼ作りをすることの重要性を感じる。(コロナ過では、家族単位で協力する学びになる)
重視する能力・態度	③多面的、総合的に考える力: 自然の環境を体験しながら学ぶ(発見、観察、表現するという作業を総合的に体験する) ⑦他者と協力する態度: 協力する楽しさを学ぶ。

### プログラムの流れ

時間	ねらい	方法 場所	内 容
10:00 ~ 60 分	スコップで泥を掘ってため池を作る作業。	田んぼビオトープ	「田植え」が終わっている田んぼを見ながら、ビオトープ田んぼに案内する。(15 分) スコップを使って、水を引き込む工夫をする。
11:00 ~ 60 分 昼食	田植え体験と泥遊びを楽しむ。	田んぼ ビオトープ	田植えをしながら、泥の感触を楽しむ。 流れで、手足の泥を落とす工夫をする。
13:00 ~ 50 分	周辺の動植物を観察	里山林 谷津田	午後の時間、里山林を散策する。(整備中、荒れているところを見る) または他の田んぼの畔を歩いてみる。オタマジャクシを見つける。
14:00 ~ 50 分	自然の中を散策する。		見つけた、動植物を観察して、できれば、スケッチしてみたい。 大きいキャンバスにみんなが書いてみる。(画材は用意する)
30 分	片付けをする		谷津田の風景や野鳥の泣き声を帰り道に楽しむ。

年間計画			
	ねらい	方法場所	内容
5月 1回目	「田植え」が終わっている田んぼを見ながら、ビオトープ田んぼに案内する。	堂谷津の里ビオトープ	ビオトープにしている田んぼ（小さい3箇所くらい）田んぼ作り泥んこから田植え体験。里山林の自然を散策。里山林と谷津田の関係を知る。観察したことを表現する。
6月 2回目	谷当町の村落を知る	村落を散策する	谷津田と里山林の昔を知る（古老に聞く）準備をする。
7月 3回目	谷当町の歴史を学ぶ。	鹿島川の下泉橋周辺を散策	川辺と谷津田の動植物の違いを体験する。古老に聞き取りの協力をしてもらおう。専門家の協力を依頼する。聞き取りを学ぶ。
8月	井戸掘り体験（1）	堂谷津の里	夏休み中（高校生と一緒に）体験の喜びを共にしたい。ホテル観察会（19：00～20：30）に参加（希望者）
9月	井戸掘り体験（2）他	堂谷津の里	井戸を使つての体験についてのディスカッション 泥んこ手足を洗う。畑に水を撒いてみる。
10月	古代米について学ぶ	大利根博物館訪問	古代米の歴史を資料などから学ぶ。 （中学～高校生対象）希望者（訪問可能か検討の必要） 秋の昆虫を観察する
11月	古代米の収穫	堂谷津の里	稲刈り体験。収穫祭に参加する。
12月	振り返りをする	堂谷津の里	古代米の脱穀体験。食べてみる。谷津田体験の感想。地域への提案、夢を語り合う。（焚き火を囲んで出来れば）
SDGs との関連性	11. 住み続けられるまちづくりを 15. 陸の豊かさを守ろう 17. パートナリーシップで目標を達成しよう		
学校・地域等との連携上の考慮	交通機関についての工夫が必要です。学校、地域の理解協力が必要です。		
対象を発展させる可能性	描いてもらった絵を展示する。写真に撮ってニュースに掲載し、参加者に送る。状況により家族単位のキャンパスにするか検討。（参加者の状況による）		
その他補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山での遊びの展開も検討したい。伐採した、枝や丸太を使って、基地作りなど計画してみたい。（観察したことを描くことをしない場合）</li> <li>・ 田んぼの水質調査を検討したい。</li> <li>・ 年間を通して、都会に住む若い親たちに、田舎暮らしを気軽に体験してもらえらる。</li> <li>・ 地域への提案（希望、夢などまとめる）地域の協力で感謝して報告書を作成する。村落にも配布する。</li> </ul>		

\* 実施計画の時期については、変更がありで検討する。

\* 谷当町の入り口周辺に資材置き場が増えていることにも、参加者から景観など、感想、提案などを聞く。（書いてもらう）

プログラム作成者名（団体名）： 佐藤 聡子（NPO 法人バランス21）